

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>○児童一人ひとりが、自分だけでなく、周りとのかかわりを大切にしながら共に生きようとする子どもを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の楽しさや知的好奇心の幅を広げ、主体的に学ぼうとする子どもを育てる。</li> <li>・自己肯定感を高め、自分以外の人や地域とのかかわりを大事にしようとする子どもを育てる。</li> <li>・安全、安心な学校生活が送れるように、体力の保持増進や心身の健康を保てる子どもを育てる。</li> <li>・多様な交流活動、グループ学習を充実させ、対話を充実させた豊かな人間関係が築ける子どもを育てる。</li> <li>・人権教育を充実させ、人の心の痛みがわかる子どもを育てる。</li> </ul>	

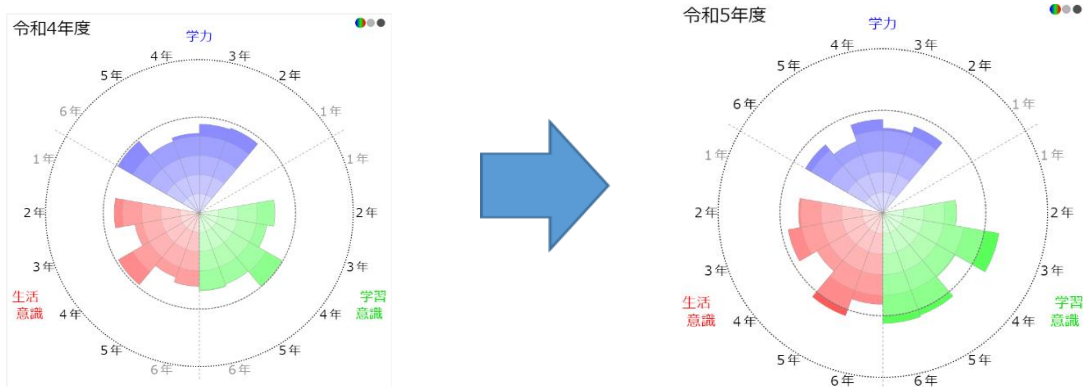
### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
生きて働く知		新学習指導要領に対応する主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成、生活・総合的な学習から得る生きた学びを活かす学習活動を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた教室づくりから始める。</li> <li>○少人数・TT・教科担任制・取り出しなど授業形態を工夫し、基礎基本の定着を図る。</li> <li>○小さな向上を見落とさず励まし、学習への意欲を維持できるようにする。</li> <li>○学び合いや話し合いを通して、主体的・対話的に学ぶ学習活動を取り入れる。</li> </ul>
	担当		

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

学力においては学年に偏りは見られるが、令和4年度と比較すると、昨年度とあまり変化はない。市平均より下回っており、昨年度と同様、学力の基礎基本の確立と低学年からの読み書き計算の習得を引き続き行っていく。また、一人ひとりが自分の考えをもち、主体的に課題に取り組む生活科・総合的な学習の時間の学習を重点として取り組んできたため、昨年度と変わらず高学年の総合学習の意欲の高まりが見られる。今後も基礎基本の学習の充実を図り、共に学び合う活動の場の工夫をしていく。家庭との連携を図りながら、家庭学習を継続し、学びの定着を図ることが必要である。



### (2) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

学習意識・生活意識においては、昨年度より全体的に上回っている。意識の向上が見られ、落ち着いた学校生活が送られていることが分かる。「自分のことが好きですか。」という設問では、昨年度は全体の28%の児童に低い傾向が見られた。今年度は22.6%で5.4%の上昇が見られた。本校児童の傾向として、「読書を読みますか。」という設問では昨年度は37.38%の児童がほとんど読んでいない。今年度は、32.8%で4.58%の上昇が見られた。「ゲームをする時間」については、市平均より長い時間行っている児童が多い。高学年になるにつれて時間が長くなっていく傾向も見られる。「一日にどのくらいゲームをしていますか。」という設問で、2時間以上ゲームをする児童が市平均だと32.4%、馬場小では37.2%と4.8%多い結果が出る。昨年度より意識は高くなったが、短い期間では学力の向上は難しい。但し、6年生の学力は年を経るごとに少しずつ向上している。学習・生活意識を向上していくことは、学力向上に結び付いていくことがわかる。

自己肯定感が低い本校児童の実態から、失敗しても安心できる学級づくりや一人ひとりの良さを生かせる環境づくりが大切である。学年・学校全体で子どもを見守り励ます体制をつくっていくことや、分かりやすい授業を行い、児童が自分に自信をもち自己肯定感が高まるような教育活動をしていくことに引き続き取り組んでいく。読書時間の確保や読書の推進も進めていく。

## 1学年

- スタートカリキュラムに重点を置き、子どもたちが安心して登校することができるように支援する。
- 学力の基礎の定着を目指すために、日々の学習や宿題を通して文字や計算などに繰り返し取り組んでいる。
- 学校生活に慣れることができるように、学校の約束を確認したり、学年で連携した指導を行ったりしている。
- 楽しみながら学習できるように、生活科を中心に体験的な活動を取り入れている。子どもたちが試行錯誤したり、成功体験を増やしたりしていけるようにしている。

## 2学年

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を目指すために、漢字計算を繰り返し練習している。また、困り感に寄り添いながら支援を重ねるために、チャレンジルーム・国際教室・入り込み支援なども適切に活用している。
- 学習習慣を身に付けるために、宿題では、家庭との連携を図っている。
- 日常的な語彙力を高めるために、日記を書く活動を取り入れている。
- 学習意欲や知的好奇心を高めるために、生活科を中心に体験的な活動を多く取り入れている。

## 3学年

- 学習に向かう態度や学習の約束事などを、学年で統一して指導をしている。
- 基礎基本の定着に努めるために、日々の宿題を通して、漢字や計算等の学習に繰り返し取り組んでいる。
- 学習では、学習内容を実生活と結び付けながら学ぶことができるようにするために、実際に人と関わったり実物を使ったりしている。
- 学年全体の児童理解を深めるために、教科担当制を通して、様々な情報を共有し、一貫した指導を行っている。

## 4学年

- 基礎的・基本的な学習内容の定着に努めるために、宿題で国語、算数など、学習の進度に合わせた内容に繰り返し取り組んでいる。
- それぞれの児童が学習に集中しやすい環境を整えるために、算数の習熟度別学習を実施している。また、児童の実態に応じた習熟度別学習に活かせるように、算数学習の進度や指導方法を学年で考えている。
- 学年教員全員が学年の児童一人ひとりの様子を細かに理解し、学習面や生活面での指導・支援に活かせるように、教科担当制を取り入れている。

## 5学年

- 子どもたちの基礎の定着と、学習に意欲的に向かう態度を育てるために、スモールステップで学習を行っている。
- 意欲的に学習に取り組むために、ドリルやプリントを使って、家庭学習で学習の振り返りができるようにするとともに、自主学習で自分の取り組みたい学習を選んで取り組むようにしている。
- 児童理解を深めるために、教科担任制を取り入れ、児童一人一人の様子を理解し、情報共有している。そして児童が安心して学校生活・学習に向かうことができるようにするために学年担任全員で児童の指導・支援を行う体制をとっている。

## 6学年

- 自らが学習課題を設定し、課題の解決に向けて真剣に本気で取り組めるように指導している。
- 学級担任ではなく、学年担任という視点から学年の児童への支援が行き渡るよう教科担任制を取り入れている。
- 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについての確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりする活動を大切にしている。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置づけている。

## 個別支援学級

- 場に応じたコミュニケーション能力を育成するために一人ひとりの発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付けている。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にしながら、個に応じた課題別学習に取り組んでいる。
- 言語能力を伸ばしていくために、個に応じた言語活動や環境整備を行っている。